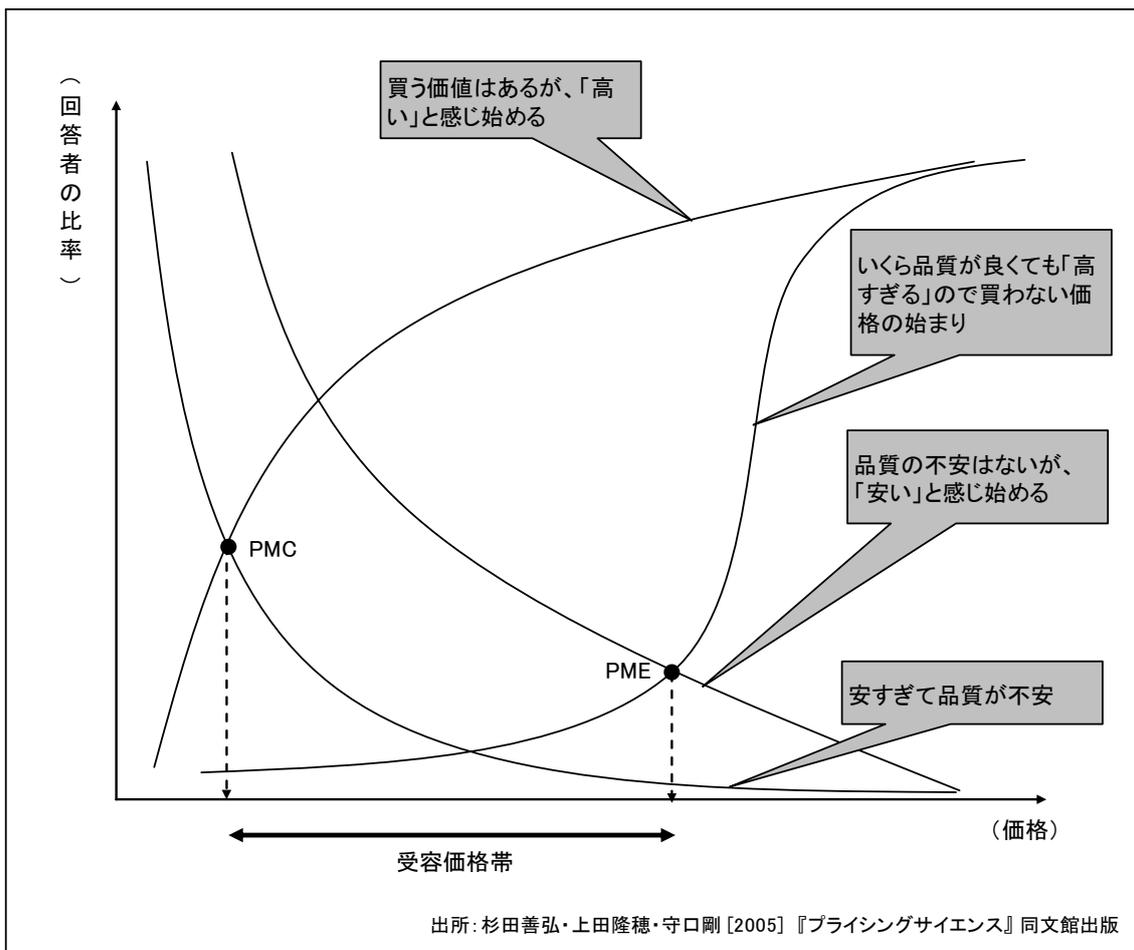


## 第Ⅶ章 食肉の価格感度測定

### 1. 価格感度測定について

価格感度測定とは、PSM (Price Sensitivity Meter [Measurement]) とも呼ばれる、既存データのない場合の受容価格範囲・最適価格を知る手法として知られているが、例えば牛乳のように日々価格が変動するような商品の受容価格範囲を知る上でも用いられている。食肉についても日々、価格が変動することから、前回に引き続き今回も、国産牛ばら肉、輸入牛ばら肉、国産豚ばら肉、鶏もも肉の4種類について、受容価格範囲を調べることにした。

図表Ⅶ-1 価格感度測定による受容価格帯推定方法



価格感度測定に行うに当たり、上記 4 種類の食肉について、以下の 4 つの質問をした。

(質問 1) あまりにも安くて、品質に不安を感じ始める 100g 当たりの値段

(質問 2) 品質に不安はないが、安いと感じ始める 100g 当たりの値段

(質問 3) 品質的に買う価値はあるが、高いと感じ始める 100g 当たりの値段

(質問 4) いくら品質が良くても、高すぎて買えないと感じ始める 100g 当たりの値段

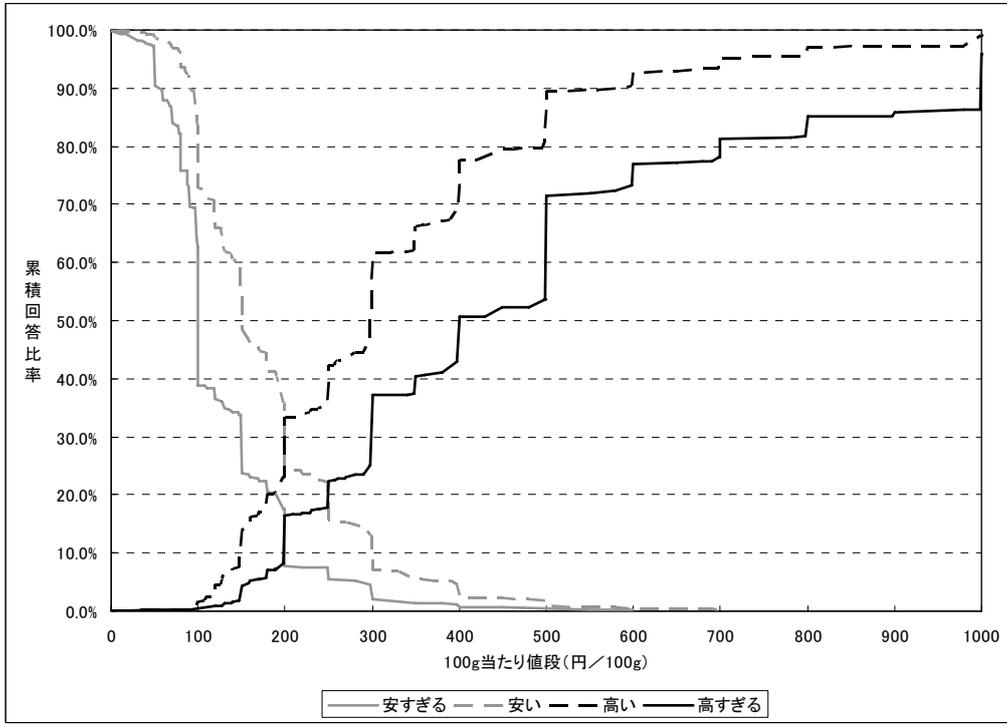
また、より直接的に以下の質問も追加した。

(質問 5) ちょうど良いと思う 100g 当たりの値段

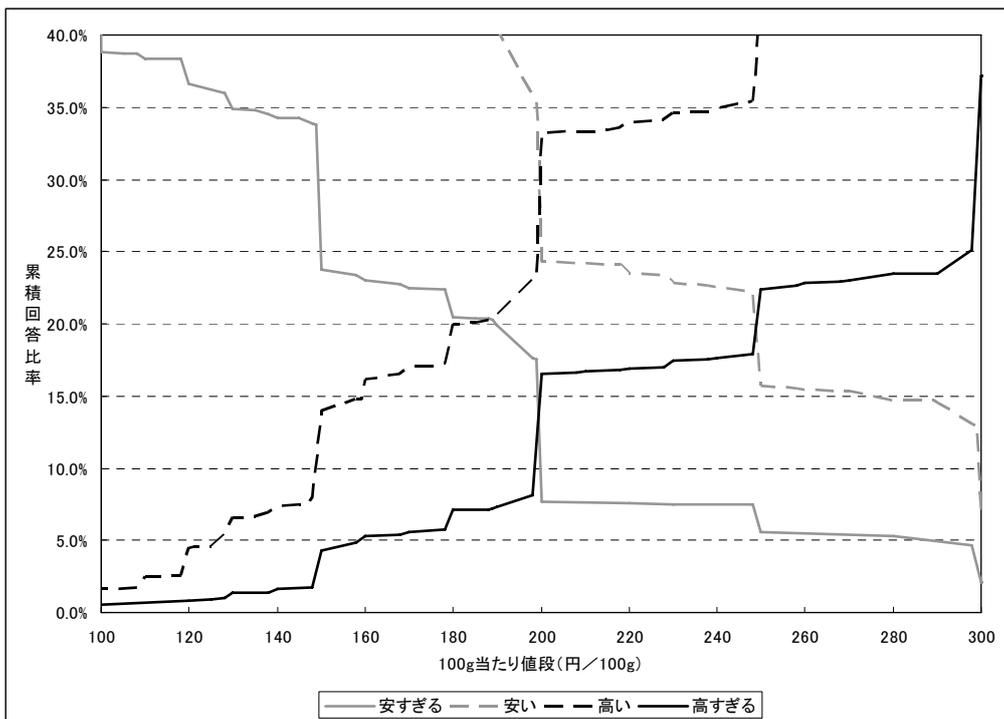
上記の質問について、どの価格で何%の回答者がそのように思うのか、累積の比率をグラフ化すると「**図表 VII-1**」のようになる。この図で、**PMC (Point of Marginal Cheapness)** は、「安すぎて品質が不安」と感じる人と「高いと感じ始める」人とが同数になるポイントで、安さの限界点とされている。一方、**PME (Point of Marginal Expensiveness)** は、「高すぎて買わない」と感じる人と「安いと感じ始める」人とが同数になるポイントで、高さの限界点とされている。この **PMC** と **PME** との間の領域が、受容価格帯として算出される。また、質問 5 の最多回答数価格や平均価格も受容価格帯の参考とする。

## 2. 国産牛ばら肉の価格感度測定

図表Ⅶ-2 国産牛ばら肉の価格感度測定（全体像）



図表Ⅶ-3 国産牛ばら肉の価格感度測定（受容価格帯近辺）



国産牛ばら肉の価格感度測定について、全体像を「**図表Ⅶ-2**」に、受容価格帯近辺のグラフを「**図表Ⅶ-3**」に示す。

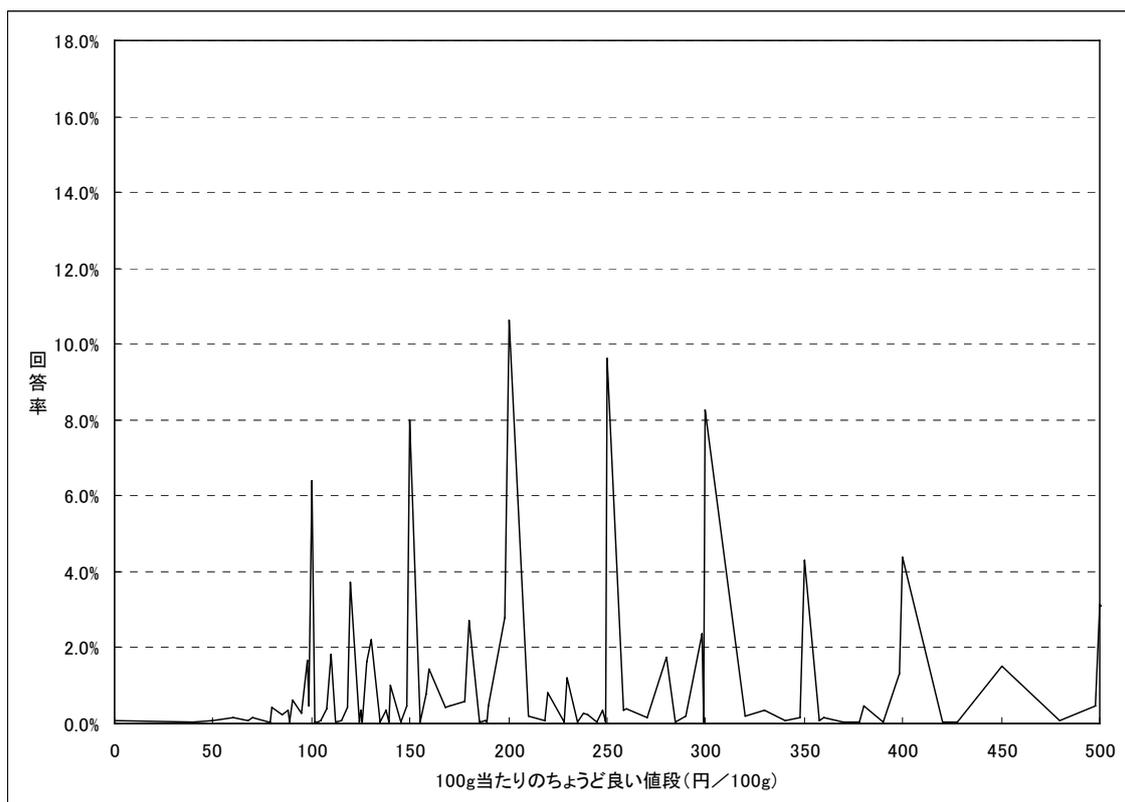
このグラフから受容価格帯を算出すると、

- ①安さの限界点（PMC）が 188.4 円／100g、
- ②高さの限界点（PME）が 248.8 円／100g

となり、消費者は、国産牛ばら肉 100g 当たり 188.4 円～248.8 円（価格幅 60.4 円）を適正な価格の範囲として認識しているということがわかった。

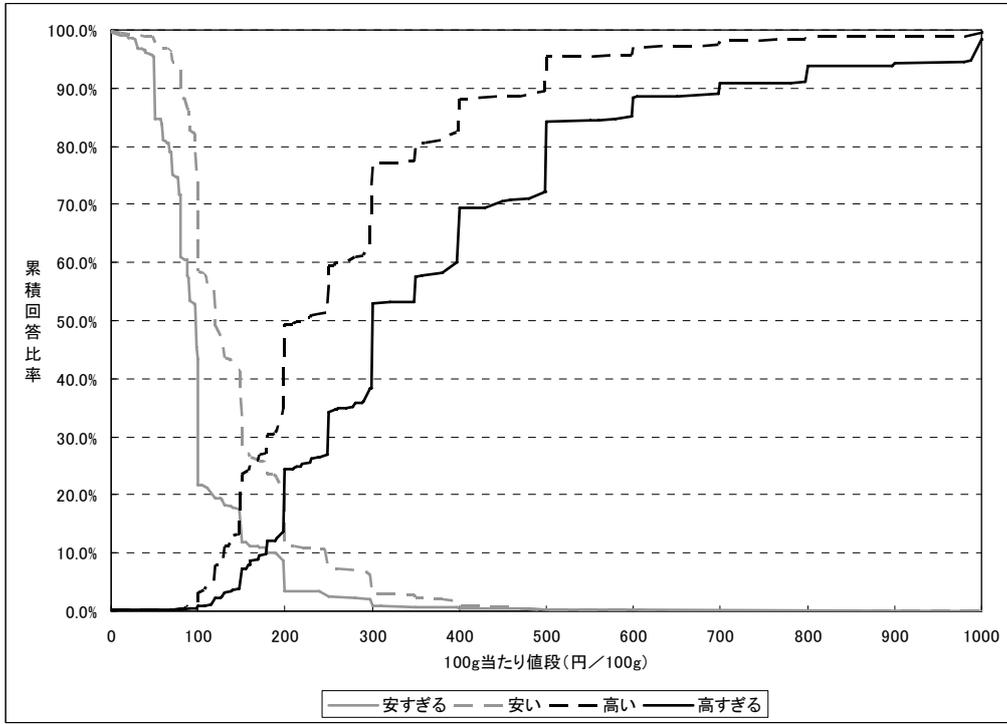
また、ちょうど良い 100g 当たりの値段としては、平均で 248.3 円、最も回答が多かった値段が 200 円の 223 件（10.6%）であり、いずれも受容価格帯の範囲内となっている。

**図表Ⅶ-4 国産牛ばら肉のちょうど良い値段回答比率**

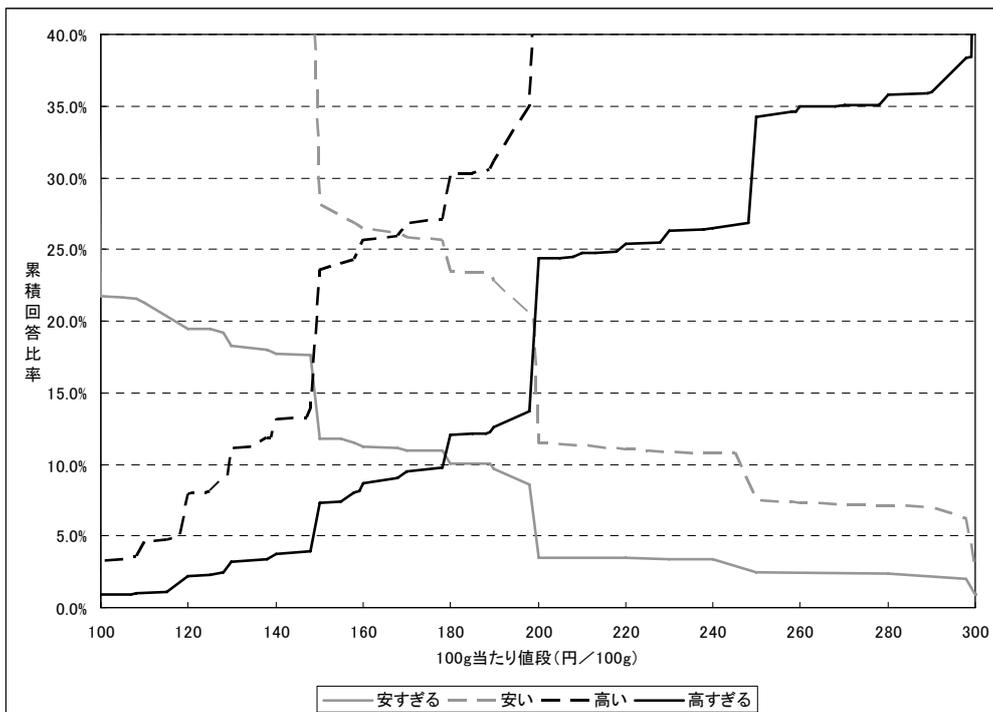


### 3. 輸入牛ばら肉の価格感度測定

図表Ⅶ-5 輸入牛ばら肉の価格感度測定（全体像）



図表Ⅶ-6 輸入牛ばら肉の価格感度測定（受容価格帯近辺）



輸入牛ばら肉の価格感度測定について、全体像を「**図表Ⅶ-5**」に、受容価格帯近辺のグラフを「**図表Ⅶ-6**」に示す。

このグラフから受容価格帯を算出すると、

①安さの限界点（PMC）が 148.5 円／100g、

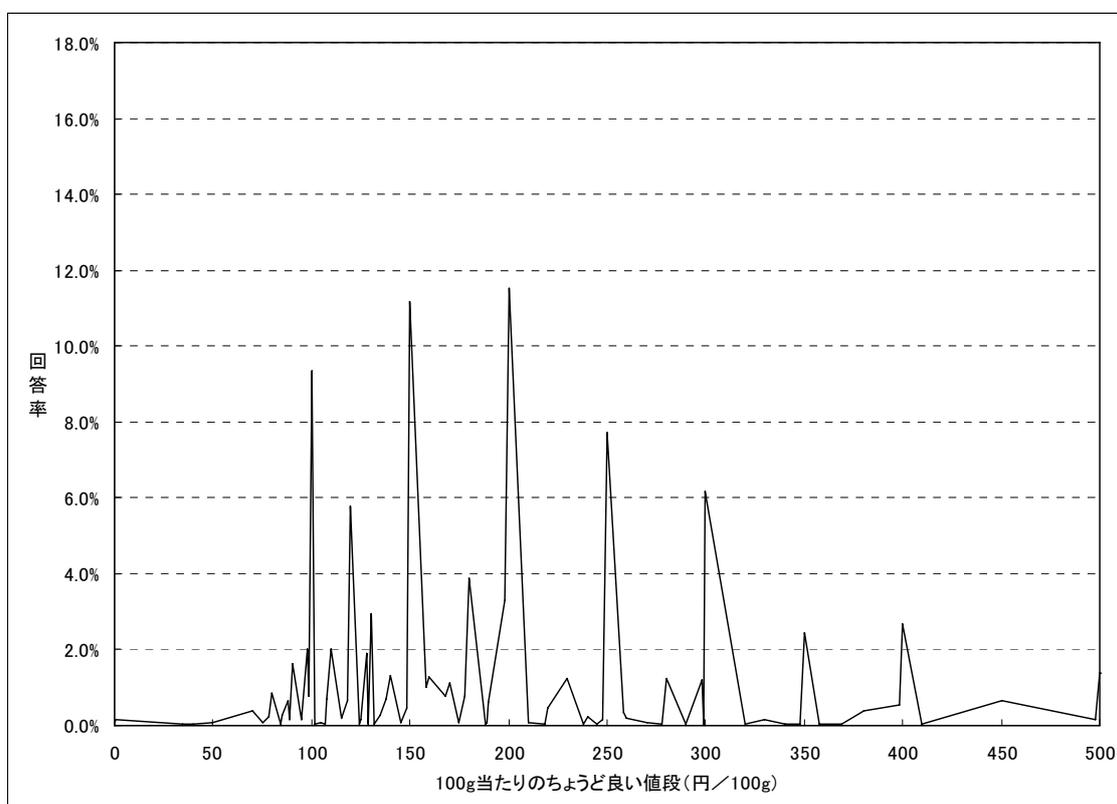
②高さの限界点（PME）が 199.1 円／100g

となり、消費者は、国産牛ばら肉 100g 当たり 148.5 円～199.1 円（価格幅 50.6 円）を適正な価格の範囲として認識しているということがわかった。

国産牛ばら肉と比較すると、輸入牛ばら肉は安い価格帯に移行しており、価格幅が狭まっている。価格幅の狭さは、品質の違いによる価格の変化をあまり認めていないということを示しているため、輸入牛ばら肉は、質よりも安さが重視されているものと推測される。

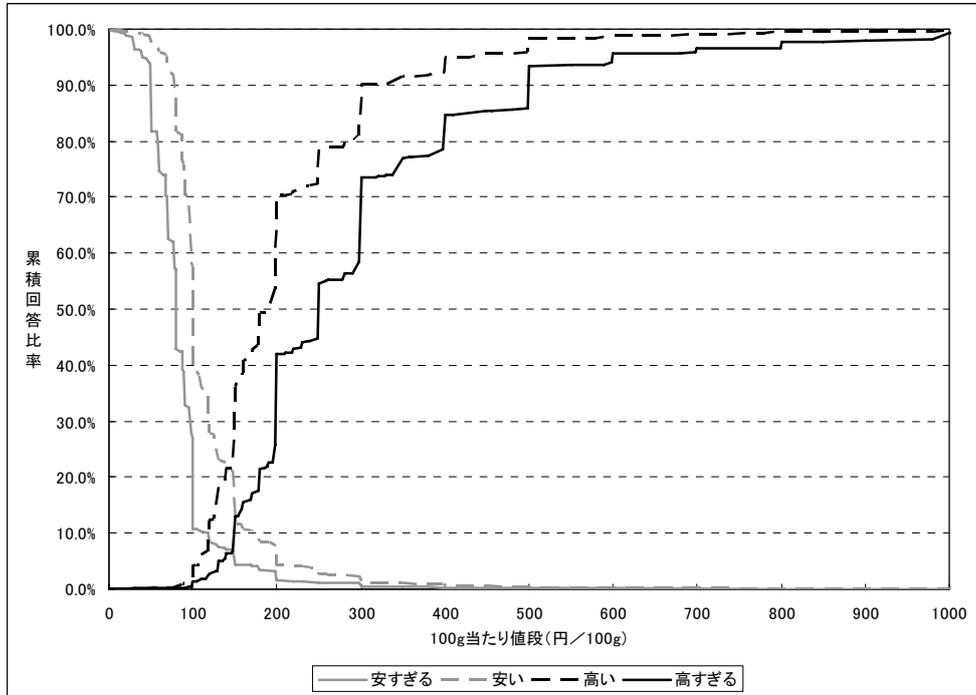
また、ちょうど良い 100g 当たりの値段としては、平均で 200.1 円、最も回答が多かった値段が 200 円の 242 件（11.5%）であり、いずれも受容価格帯の範囲外となった。

**図表Ⅶ-7 輸入牛ばら肉のちょうど良い値段回答比率**

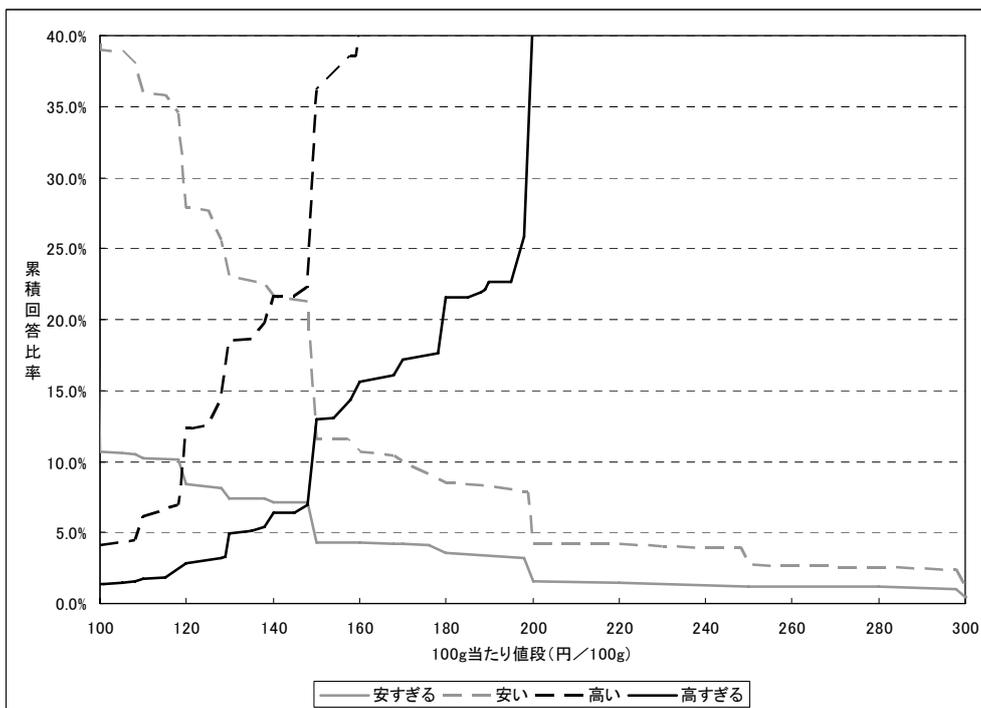


#### 4. 国産豚ばら肉の価格感度測定

図表Ⅶ-8 国産豚ばら肉の価格感度測定（全体像）



図表Ⅶ-9 国産豚ばら肉の価格感度測定（受容価格帯近辺）



国産豚ばら肉の価格感度測定について、全体像を「図表Ⅶ－8」に、受容価格帯近辺のグラフを「図表Ⅶ－9」に示す。

このグラフから受容価格帯を算出すると、

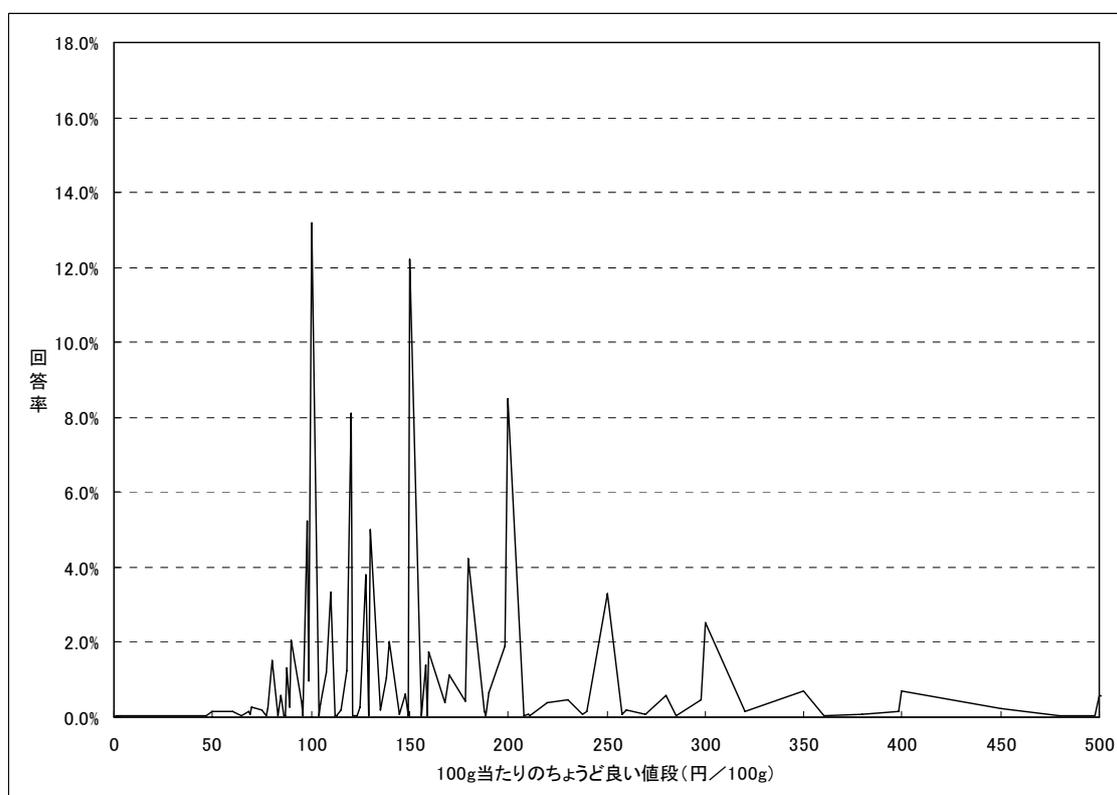
①安さの限界点（PMC）が 118.9 円／100g、

②高さの限界点（PME）が 149.8 円／100g

となり、消費者は、国産豚ばら肉 100g 当たり 118.9 円～149.8 円（価格幅 30.9 円）を適正な価格の範囲として認識しているということがわかった。

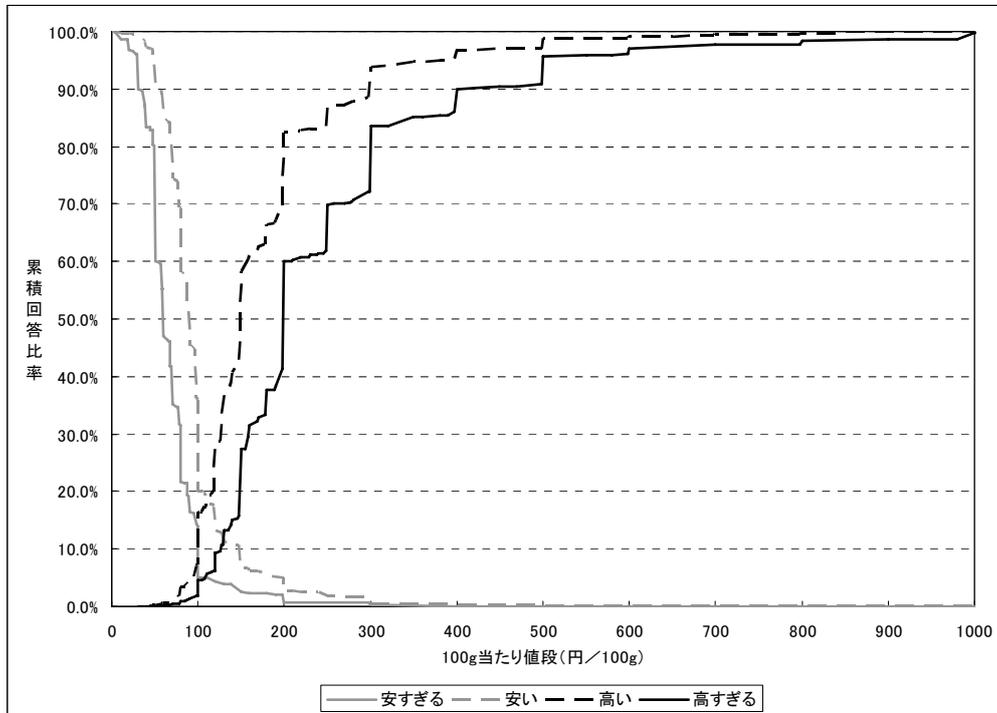
また、ちょうど良い 100g 当たりの値段としては、平均で 157.4 円、最も回答が多かった値段が 100 円の 277 件（13.2%）であり、いずれも受容価格帯の範囲外となった。なお、2 番目に回答が多かった値段が 150 円の 256 件（12.2%）と、一番多かった値段との差が少なかった。消費者にとっての値ごろ価格が、100 円近辺と 150 円近辺の二極化構造になっていることが考えられる。

図表Ⅶ－10 国産豚ばら肉のちょうど良い値段回答比率

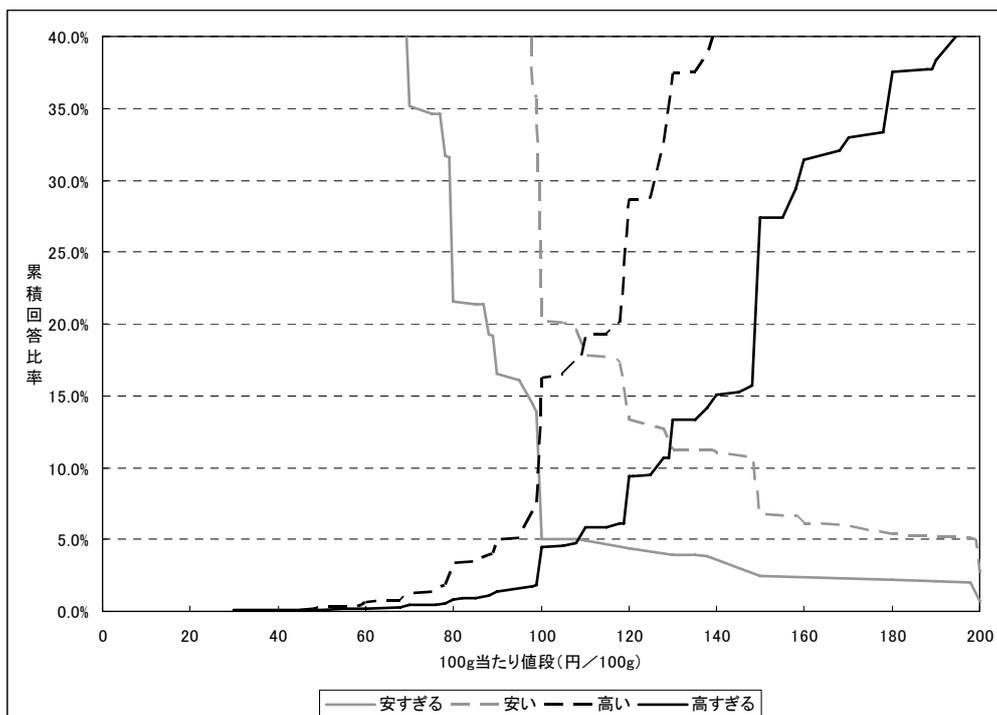


## 5. 鶏もも肉の価格感度測定

図表Ⅶ-11 鶏もも肉の価格感度測定（全体像）



図表Ⅶ-12 鶏もも肉の価格感度測定（受容価格帯近辺）



鶏もも肉の価格感度測定について、全体像を「**図表Ⅶ－11**」に、受容価格帯近辺のグラフを「**図表Ⅶ－12**」に示す。

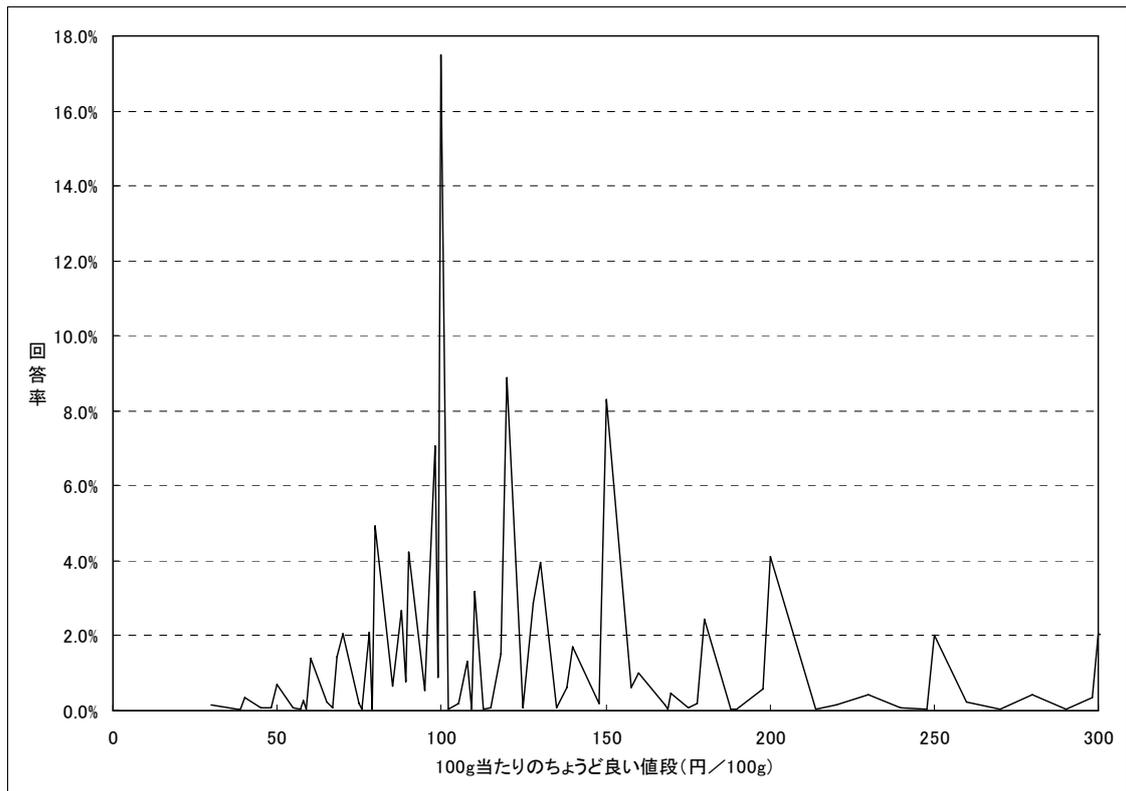
このグラフから受容価格帯を算出すると、

- ①安さの限界点（PMC）が 99.4 円／100g、
- ②高さの限界点（PME）が 129.4 円／100g

となり、消費者は、鶏もも肉 100g 当たり 99.4 円～129.4 円（価格幅 30.0 円）を適正な価格の範囲として認識しているということがわかった。

また、ちょうど良い 100g 当たりの値段としては、平均で 131.7 円、最も回答が多かった値段が 100 円の 367 件（17.5%）であり、平均は受容価格帯の範囲内となったが、最多価格帯は受容価格帯の範囲内となった。

**図表Ⅶ－13 鶏もも肉のちょうど良い値段回答比率**



## 6. 受容価格帯の変化

図表Ⅶ－14 受容価格帯の比較

(単位:円/100g)

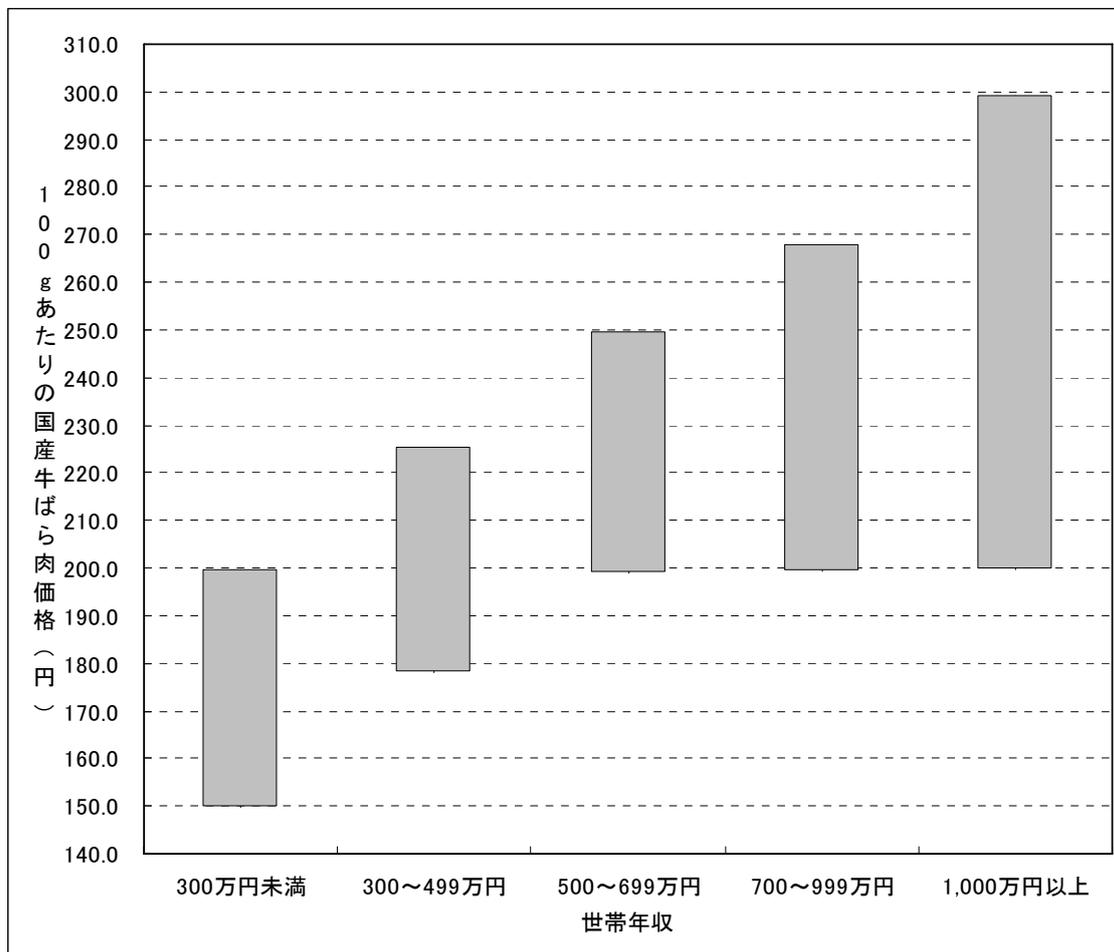
		H20/06調査	今回調査
国産牛ばら肉	安さの限界点(PMC)	178.3	188.4
	高さの限界点(PME)	248.1	248.8
	適正価格の平均	243.1	248.3
	最多適正価格	200.0	200.0
輸入牛ばら肉	安さの限界点(PMC)	148.4	148.5
	高さの限界点(PME)	199.1	199.1
	適正価格の平均	194.5	200.1
	最多適正価格	150.0	200.0
国産豚ばら肉	安さの限界点(PMC)	118.8	118.9
	高さの限界点(PME)	149.7	149.8
	適正価格の平均	154.9	157.4
	最多適正価格	150.0	100.0
鶏もも肉	安さの限界点(PMC)	99.0	99.4
	高さの限界点(PME)	128.5	129.4
	適正価格の平均	126.7	131.7
	最多適正価格	100.0	100.0

受容価格帯(PMCとPME)を前回調査と今回調査で比較すると、国産牛ばら肉のPMC以外は、誤差±1円の範囲内に納まっていることがわかる。このことは、短期的な状況に過ぎない可能性もあるが、消費者の持つ受容価格帯が極めて固定的で、変化しにくいものになっていると想定される。

適正価格の平均を比較すると、今回調査の方が前回調査よりもおおむね3～5円高くなっている。需要価格帯にはほとんど変化が見られなかったが、適正価格の平均には、変化が見られた。

## 7. 世帯年収別の価格感度測定

図表Ⅶ-15 国産牛ばら肉の世帯年収別受容価格帯



前回調査同様、国産牛ばら肉を例に受容価格帯の世帯年収による違いを分析する。世帯年収ごとの安さの限界点（PMC）と高さの限界点（PME）との価格幅（受容価格帯）を示したものが「図表Ⅶ-15」である。

この図を見ると、世帯年収300万円未満が200円/100gを上限とし、世帯年収300~499万円が200円/100gを中心に、世帯年収500万円以上が200円/100gを下限にしていることがわかる。

また、世帯年収500~699万円、700~999万円、1,000万円以上と世帯年収が上がるとともに、上限金額も100g当たり249.8円、268.0円、298.1円と上がっていき、年収の上昇に応じて、より高価な食肉を日常的に食べるようになることを示している。